

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	藤林 比登美	所 属	U18 連盟／東部
大会名	令和7年度 関東中学バスケットボール大会		
期 間	2025年 8月7日 ～ 9日		
会 場	緑が丘スポーツ公園体育館／小瀬スポーツ公園体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
8月 5日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
8月 7日	1回戦	緑が丘スポーツ公園体育館	
8月 8日	2・3回戦	緑が丘スポーツ公園体育館	
8月 9日	準決勝・決勝	小瀬スポーツ公園体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>●指名審判員レクチャー</p> <p>栃木県バスケットボール協会 S級審判員 若林謙作氏</p> <p>■ Respect for the game ～様々な立場から～</p> <p>① 指導者：(1)ゲームと一緒に進める意識 (2)コミュニケーション (3)ベンチの意図</p> <p>② TO/FK/MC：(1)コミュニケーション (2)同じクルーである意識 (3)分かりやすいプレゼン</p> <p>③ 保護者：(1)判定の公平性、処置ミスゼロ (2)指導者との協力 (3)オフザコートでの言動</p> <p>④ 選手：(1)公平なプレーコーリング (2)コミュニケーション (3)Player first の考え方</p> <p>「参加してよかったと思えるような大会に！」</p> <p>茨城県バスケットボール協会 S級審判員 武藤陽子氏</p> <p>■ なりたい自分になるために ～モチベーションの高め方～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の強みを理解する → 自信 ・仲間を作る → 安心・向上心 <p>モチベーションの高め方は人それぞれ 自分に合った方法でなりたい自分になる。</p> <p>東京都バスケットボール協会 S級審判員 加藤暁生氏</p> <p>■ ミスしたことを作業化して習慣化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールがデッドになる度に TO を確認。 ・後半へ向けて、ハーフでは試合直前と同じアップを行う。 ・笛をくわえながら、クロックや選手の番号を声に出す。 <p>→ 不得意なことや失敗したところに作業を入れていくと、きちんと処理できたりミスを防ぐことができる。</p>			
担当試合①			
期 日	8月8日（金） 準々決勝		
対戦カード	陽南中学校（栃木） vs 八王子第一中学校（東京）		
ク ル ー	CC：岸 由貴氏（群馬） U1：藤林 比登美（埼玉） U2：山越 優美氏（千葉）		
ミーティング内容	審判主任：中澤 美保子氏（神奈川）		
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回戦の試合をスカウティングし、勝ち上がりのチームの情報を共有。（Key playerの確認やチームの特徴について） ・基本的なメカニクス、約束事について確認。 			

▶ゲーム後のミーティング

チームのファウルバランスや個人ファウルについてなど、ゲーム中にフローを確認しながらクルーで進めることができた。青の悪い手の使い方について、笛を鳴らし続けられたのはよかった。結果的に、5アウトのプレイヤーもいたが、確認しながら進めることができていた。

リバウンドやトランジションの際の手を使って優位にボールをコントロールしようとするところで、CCの岸氏に笛を入れていただくことがあったので、判定に参加できるとよかった。

担当試合②

期 日	8月9日(土) 決勝
対戦カード	相模女子中学校(神奈川) vs 八王子第一中学校(東京)
ク ル ー	CC:六角 亜沙美氏(東京) U1:雨宮 恵氏(山梨) U2:藤林 比登美(埼玉)

ミーティング内容

審判主任:梶 崇司氏(栃木)

▶ゲーム前のPGC

- ・key playerやチームの特徴など、情報を共有。
- ・予想される試合展開や起こり得る事象について共有。

▶ゲーム後のミーティング

クルーで協力してひとつひとつの判定を積み上げられたのがよかった。しかし、ファウルバランスの偏りについては仕方がないものの、それを加味してファウルとして笛を入れられるケースはあった。ファウルでなくてもトラベリングや3秒などのヴァイオレーションでの笛の入れ方もできたのではないか。メカニクスでは、ゲーム展開にマッチしたスプリント、2or3の協力の部分がよかった。

全体の感想

この度は、関東中学女子バスケットボール大会へ派遣していただきありがとうございました。今大会では、審判の割り当て2試合に加え、審判主任も3試合担当させていただきました。自分自身がオンザコートで感じたものを表現していくことも大事なことです。オフザコートから試合を捉え、講評の場で伝えていくこともレフェリングのスキルアップに必要な要素だと実感することができました。審判については、今大会の女子決勝という大変重要な試合を担当させていただき、光栄に思っております。最後まで勝敗の分からない緊張感のある試合でしたが、私の審判活動において貴重な経験となりました。

最後になりますが、開催県である山梨県バスケットボール協会の皆様、今大会を運営していただいた関係者の皆様、ご一緒させていただいた審判員の皆様、日頃よりご指導いただいております埼玉県審判員の皆様へ感謝申し上げます。今回の経験を胸に、今後ともスキルを高めていけるよう精進してまいります。

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	小原 宏太	所 属	U18東部 カテゴリ
大会名	令和 7年度 関東中学バスケットボール大会		
期 間	2025年 8月7日 ~ 9日		
会 場	甲府市小瀬スポーツ公園体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
8月 5日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
8月 7日	1回戦	小瀬スポーツ公園体育館	
8月 8日	2・3回戦	小瀬スポーツ公園体育館	
8月 9日	準決勝・決勝	小瀬スポーツ公園体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
【レクチャー】			
●若林謙作氏			
<p>様々な立場からの思いを考え、どのように取り組んでいかをお話しいただいた。①指導者とは一緒にゲームを進めていく存在であること。②TO.FK.MC などと同じクルーとしてわかりやすいコミュニケーションを心がけたい。③保護者は映像を撮影していく方が多く、SNS にあがることも少なくない。処置ミスがないように。④選手は多感な時期にいて、3年間の思いを発揮してくる。公平なプレーコーリングが大切である。</p>			
●武藤陽子氏			
<p>モチベーションの上げ方などについて。色々な低下要因がある中で、どのように向上させていか。自分の目標を明確にし、強みを理解する。仲間を作り、不安になったりしても支え合うことが大切になる。</p>			
●加藤暁生氏			
<p>ミスしたことを作業化して、習慣化することについて。自身の失敗をもとに、どのような習慣を持つことでそのミスを無くすかを紹介してください。例えば3Qの入りが悪い時があった場合には、ハーフタイムにゲーム前のアップを行うようにする。リードでボールウォッチャーになる悪い癖がある場合、セルフトークで「強気、目の前」など言う。など失敗した後は、無くすような作業を考えることにしている。</p>			
担当試合①			
期 日	8月7日（木） 1回戦 男子		
対戦カード	赤塚中学校（茨城）vs 塩山中学校（山梨）		
ク ル ー	CC：岡 龍哉氏（栃木） U1：小原 宏太（埼玉） U2：横山 崇斗氏（千葉）		
ミーティング内容	審判主任：武藤 陽子氏（指名）		
▶ゲーム前のPGC			
<p>レクチャーであったリスペクト フォア ゲームについて触れ、基本的なメカニクスはもちろん各選手がベストの力が出せるよう判定していくということを確認しあった。</p>			
▶ゲーム後のミーティング			
<p>必要なところには笛が入っているし、無駄な笛も少ない。2人で鳴っているものでプライマリーがどちらなのかを精査する必要がある。また、負けたチームからは3人の5ファールがいた。4つファールをしている状況をしっかりと把握していたら、ファールとして取り上げなくても良いものもあった。淡々と審判を行なっているので時折、力強くプレゼンテーションをするとより存在感が出る。</p>			

担当試合②	
期 日	8月8日（金） 2回戦 男子
対戦カード	ちはら台南中学校（千葉） vs 高南中学校（群馬）
ク ル ー	CC：小原 宏太（埼玉） U1：天野 賢介氏（山梨） U2：南出 大輔氏（神奈川）
ミーティング内容	審判主任：若林 謙作氏（指名）
<p>▶ゲーム前のPGC チームの特徴 各自の紹介と課題の共有 ベーシックの確認など</p> <p>▶ゲーム後のミーティング テンポセットができて、チームもアジャストしてくれたゲーム。Q 毎にファール数も減っていき、クリーンなゲームとなった。その中でダブルホイスルになった時に様々な要素を把握して、話し合ってからレポートに移ることも必要。クロックについてより高い意識を。24秒リセットになるかもしれないシーンではその確認を取り、T O・ベンチに共有する丁寧さが必要であること。8秒バイオレーションがあった際にはマジックタイムから1秒戻す必要があり、把握しておきたかったもの。</p> <p>クリアアウトのファールを取り上げた際には、オフェンスのファールは充分飲み込めるが、デフェンスもフェイク要素があったため、こちらについても警告を入れると公平感が生まれてくる。</p>	
全体の感想	
<p>この度は関東中学校バスケットボール大会に派遣いただき誠にありがとうございました。</p> <p>県内での活動でも日頃から貴重な経験をしています。このような県外派遣では他県のS級審判の方々からのレクチャーや主任に入っただけの講評が非常に勉強になります。また、数ヶ月ぶりに審判姿を見ていただく機会となり変化した点をお互いに共有できるというのも非常に価値ある機会と感じました。クラブチームが活性化する中で、全国大会に出場できなくとも中学バスケが引退とならなくとも、一戦一戦が非常に大切な試合となるところで、携われたことは名誉なこと。この大会で学んだことを県内に還元していけたらと思います。</p> <p>最後になりましたが、眞榮喜審判部長をはじめ、埼玉県審判部の皆様、本大会に派遣いただきありがとうございました。そして、親切に対応してくださいました佐田様をはじめとする山梨県バスケットボール協会審判部の皆様、関東ブロック審判長平原様、ご講義いただきました指名審判員 加藤様、武藤様、若林様、大会期間中にお世話になりました全ての役員の皆様に感謝申し上げます。今後とも宜しく願い致します。</p>	

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	野口 祐大	所 属	社会人連盟
大会名	令和7年度 第55回関東中学校バスケットボール大会		
期 間	2025年 8月7日 ~ 9日（参加日：8月7日～9日）		
会 場	甲府市小瀬スポーツ公園体育館・甲府市緑が丘スポーツ公園体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
8月 5日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
8月 7日	1 回戦	小瀬スポーツ公園体育館	
8月 8日	2 回戦・3 回戦	小瀬スポーツ公園体育館・緑が丘スポーツ公園体育館	
8月 9日	準決勝・決勝	小瀬スポーツ公園体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>●指名審判員レクチャー</p> <p>指名審判員の3名によるレクチャーが行われた。</p> <p>●加藤暁生氏（東京都/S級）</p> <p>テーマ：ミスしたことを作業化して習慣化する</p> <p>・失敗した後、その失敗をなくすような作業を考えて繰り返し練習する。もし、習慣化できれば審判のスキルアップにつながるのではないかな。</p> <p>●武藤陽子氏（茨城県/S級）</p> <p>テーマ：なりたい自分になるために「モチベーションの高め方」</p> <p>・モチベーション低下の原因→意義が感じられない。目的の喪失。不透明な評価。孤立。心理的安全性の欠如など</p> <p>・モチベーションの上げ方→目標を明確化。ルーティンを作る。仲間を作る。</p> <p>自分の強みを理解することによって、それが自信につながる。また、審判を始めた時からの仲間と現状を共有しつつ、安心感・向上心を保つ。こうすることによって仲間に支えられながら挑戦する環境ができてくる。</p> <p>モチベーションの高め方は人それぞれ。自分に合った方法でなりたい自分に向かい合う。</p> <p>●若林謙作氏（栃木県/S級）</p> <p>テーマ：respect for the game～様々な立場から～</p> <p>大会の位置付け→勝ち上がった4つのチームが全国大会へ</p> <p>様々な立場があることを理解し、それぞれの背景を理解し、協力しながら試合を進めていくこと。</p> <p>立場① 指導者（顧問、外部指導員、地域指導員）</p> <p>→バスケットボール経験者とは限らない。経験年数、選手（生徒との関係性）</p> <p>1 ゲームを一緒に進める意識 2 コミュニケーション 3 ベンチの意図</p> <p>立場② TO・FW：中学生、TO主任・MC：競技役員・中学校教員</p> <p>1 コミュニケーション（試合前に必ずコミュニケーションをとる。） 2 同じクルーである意識 3 わかりやすいプレゼン</p> <p>立場③ 保護者→熱心な保護者（応援？やじ？）、試合映像&同時配信、SNSへの投稿</p> <p>1 判定への公平性、処置ミス0（指導者との協力して試合を進めていくことも必要）</p> <p>2 指導者との協力 3 オフコートでの言動（チーム関係者の言動などを気を付ける）</p> <p>立場④ 選手→プレイレベルの向上（トップリーグの影響）、思春期（多感な時期）、3年間の思い</p> <p>1 公平なプレイコーリング 2 コミュニケーション 3 prayers First の考え方</p> <p>※様々な立場の方が参加してよかったと思えるような大会にする。</p>			

担当試合①	
期 日	8月8日（金） 2回戦
対戦カード	豊里中学校（茨城） vs 実践学園中学校（東京）
ク ル ー	CC：岡 龍哉氏（栃木） U1：野口 祐大 U2：中嶋 駈氏（山梨）
ミーティング内容	審判主任：加藤 暁生氏（指名/東京）
<p>▶ゲーム前の PGC</p> <p>基本的なメカニクスの確認。クルーでの約束事、チーム情報の共有。</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>ゲームを通して、細かいポジションアジャストが行えていた。</p> <p>ロススコアの展開になったが、お互いにスコアできない理由を考えていくことでメカニクスの調整ができる。</p> <p>クロック修正で時間をとってしまう場面があった。クルーを尊重しつつ、円滑なコミュニケーションでゲームを進めていくことが今後の課題。</p> <p>セカンダリで吹いたケースについて、もう少し早いタイミングで笛を入れられるとよかった。</p>	
担当試合②	
期 日	8月8日（金） 3回戦
対戦カード	梅丘中学校（東京） vs 上志津中学校（千葉）
ク ル ー	CC：梶 崇司氏（本部/栃木） U1：野口 祐大 U2：小椋 哉斗氏（山梨）
ミーティング内容	審判主任：草野 伸明氏（東京）
<p>▶ゲーム前の PGC</p> <p>基本的なメカニクスの確認。プレスの対応など、具体的なシチュエーションでのメカニクス確認。</p> <p>チームのスカウティング情報の共有。（選手、HC、キープレイヤー）</p> <p>この試合を勝ったチームが全国大会への出場が決定する。（正しく強いチームが勝ち上がるよう判定を積み重ねていく。）</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>1Q からプライマリで起こる現象に対して、セカンダリとして笛を入れていただくことがあった。ゲームのキープレイヤーに対するもので逃すと選手やベンチにストレスを与えてしまうため、シンプルにプライマリで判定していくことが必要。</p> <p>ペイントエリアで起こる現象に対して積極的に判定に参加してほしい。3人の中で起こるものなど。</p>	
全体の感想	
<p>はじめに、今大会へ派遣していただきありがとうございました。</p> <p>今大会を通して、基本を徹底することの重要性を改めて感じました。</p> <p>また、自身には理想のゲーム像に近づけるために、どのように笛を入れてメッセージしていくのかという視点が足りないと感じました。その時に起こった現象に判定するだけでなく、自身の描く理想のゲーム像に近づけていくために判定し、効果的なコミュニケーションをしていくことが必要だと感じました。</p> <p>今回の経験を自身のステップアップに繋げていくとともに、還元できるよう精進して参ります。</p> <p>最後になりますが、今大会にご尽力いただきました山梨県バスケットボール協会の皆さま、そして派遣いただきました埼玉県バスケットボール協会の皆さまに心より御礼申し上げます。</p>	

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	清水 実咲	所 属	U 1 5 連盟
大会名	令和7年度 第55回関東中学校バスケットボール大会		
期 間	2025年 8月 7日（木）～ 9日（土）		
会 場	山梨県甲府市小瀬スポーツ公園体育館、緑が丘スポーツ公園体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
8月5日（火）	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
8月7日（木）	男女1回戦	小瀬スポーツ公園体育館、緑が丘スポーツ公園体育館	
8月8日（金）	男女2回戦、準々決勝	小瀬スポーツ公園体育館、緑が丘スポーツ公園体育館	
8月9日（土）	男女準決勝、決勝	小瀬スポーツ公園体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>（1）挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ●山梨県バスケットボール協会 専務理事 仙洞田一郎 様 ・暑い中、ありがとうございます。2面2会場でご不便をおかけすることもあるかと思いますが、県内審判員のできる限りの対応をさせていただきます。3日間お世話になります。 ●山梨県バスケットボール協会 審判委員会 委員長 佐田 幸一 様 ・昨年度の国スポ予選開催に引き続き、今年度も山梨県開催でお世話になります。 ・今年度からスラックス着用ではなく、宿舎からポロシャツ、ハーフパンツでの移動可となります。 ●関東バスケットボール協会 審判委員長 平原 勇次 様 ・今までの努力を還元できるように。 ・今大会は、チームとして純粋に全国大会につながる唯一の大会であることを念頭に置いて、当日を迎えてほしい。 ・さまざまなカテゴリーの審判員がいる中で、トップリーグ等で活躍されている上級の方と出会える機会になる。トップリーグで家庭や仕事などと両立しながら苦勞されている方々のお話を聞いて、コミュニケーションをとるようにしましょう。それが、良い大会運営につながるようにしましょう。 <p>（2）指名審判員レクチャー</p> <ul style="list-style-type: none"> ●栃木県バスケットボール協会 S級審判員 若林 謙作 様 「Respect for the Game～様々な立場から～」 ・今大会の位置付け 各地区大会 → 各都県大会（代表2～4） → 各ブロック大会（代表4） → 全国大会（鹿児島） チームにとっては、年に1回しかない全国へのチャンス。勝てば天国、負ければ地獄となる大会。 ・立場①指導者 顧問の先生、外部指導者、地域指導員／バスケットボール経験者とは限らない／経験年数（初出場～常連） →①ゲームを一緒に進める意識をもつ ②コミュニケーションを図る ③ベンチの意図を汲み取る たとえ指導者と関係性があつたとしても、有利に判定するなどあつてはならないこと。 そういう時こそ審判員として、公平性や平等性について改めて考えてほしい。 ・立場②TO／FK（FS）／MC TO、FK（FS）は中学生／TO主任は競技役員（大人）／MCは中学校教員。 →①コミュニケーション：今大会、TOとの事前のカンファレンスはないが、ゲーム10分前にはコートに行き、必ず話をする事。 ②同じクルーである意識をもつ：ゲームを一緒に進めていく仲間意識をもつ。アイコンタクトなど心がける。 ③分かりやすいプレゼン：TOレポートや時間の訂正など、中学生に分かりやすく伝えるように。生徒の立場に立って優しく。 			

・立場③保護者

熱心な保護者（応援？ヤジ？）／試合映像撮影&同時配信／SNSへの投稿

→①判定の公平性：処置ミスゼロにすることを心がける。ただ人間なのでミスはある。

②指導者との協力：ゲーム中にミスがあったとしても、そんな時こそ指導者にも協力してもらう。

③オフコートでの言動：いつどこで、保護者が私たちの話を聞いているか分からない。時や場所を考えた言動を心がける。

・立場④選手

近年、プレイレベルの向上（トップリーグの影響）／思春期（多感な時期）／3年間の思い

中学生の中には、上手いかずにイライラ、涙を流して泣きながらプレイする、途中でプレイを辞めてしまう選手もいる。

そういう選手に限って、指導者の言うことを聞かない。

→①公平なプレーコーリング

②コミュニケーション：例えば、イライラしてボールを床に叩きつけた選手に対して、テクニカルファウルも一つの選択肢。

ただ、中学生という発展途上の選手が行うこと。もしかしたらコミュニケーションで解決するかもしれない。

③プレーヤーズファースト：正解は一つではない。いつでも選手のことを一番に考えて、何が最善かを考えていくこと。

●茨城県バスケットボール協会 S級審判員 武藤 陽子 様 「なりたい自分になるために～モチベーションの高め方～」

・今大会の自身の目標は何ですか？

→選手も目標をもって今大会に懸けている。我々審判員も目標をもってコートに立つように。

選手も審判員も Good game と感じる大会にしていきたいと思います。

・今後、どんな自分になりたいですか？

→人によっては「上級になりたい」「決勝の割り当てをもらいたい」などあるかもしれない。

「絶対になってやる」という強い気持ちがある。「モチベーション」である。目標達成するための行動を起こす原動力となるもの。

・モチベーション低下の原因：目標の喪失、意義が感じられない、孤立、不透明な評価、承認の欠如、心理的安全性の欠如など

↓

・モチベーションの高め方：目標を明確にする、ルーティンを作る、仲間を作るなど

☆特におすすめの2つ

①自分の強みを理解する

強みは何か考えた時に、弱みの方が出てくる。思いつかなければ、他の人に聞いてみる。強みが分かると、自信につながる。

②仲間を作る

上手いかわからない時に、より仲間の存在が力をくれる。武藤氏にも、B級の時からの付き合いの仲間がいる。

困った時、落ち込んだ時に助けてもらっている。自分自身のことを話すことで、自分では気付かないことに気付くこともある。

今では様々な会場で会えることが楽しみになっている。仲間に支えられていることに感謝して、支えられる人になりたい。

人それぞれ高め方がある。今大会、中学生にとって一生の思い出に残る大会になるようにしましょう。

●東京都バスケットボール協会 S級審判員 加藤 暁生 様 「ミスしたことを作業化して習慣化する」

(例) ご一緒した CC の方が、スローインさせた数秒後にクロック訂正していた。

→タイマーを見ていたから訂正ができた。

→自身は毎回スローインのたびにタイマーを見ているか？ 審判を始めた時は色々気付かなかった。

(例) 3Q の入りが良くない、ふわっと入ってしまう→ハーフタイムの終わりに、試合前を同じアップをするように。

(例) リングに当たったかどうか飛んでしまう→「当たった」「エアボール」とセルフトークするように。

(例) 同時刻入退場に気付けない→アウトした選手の背番号を呼ぶように。

(例) フリースロー テンディングやタップシュートが起こるとプレゼンが弱い→2投目の前に頭の中で1回力強いプレゼンをする。

(例) スティール 攻守交代時のファウル

→チームコントロールファウルを TO に指摘されたことがあった。

→チームコントロールファウルか、1回は C3、C4 を考えるように。

(例) 試合で追い込まれている時のリードが、ボールウォッチャーになってしまう

→リードに入るときに一回一回「強気！強気！」「目の前！目の前！」と言う。きれいに立つように。

(例) 3Q 開始時に起こり得るミス

→攻める向き、ゲームクロック・ショットクロック、コート上に 10 人いるか、TO も準備ができているか、コート上に CAP はいるか、アローが変わったか、ゲームクロックが 8:00 であるか、など

→様々なことを想定しておくミスも減るのではないかな。

(例) フリースローで起こり得るミス

→シューターが合っているか、与える本数が合っているか（1・2・3 ショット）、立ち位置の確認、クロックの把握、同時刻入退場の可能性、シューターバイオレーション、など

(例) C to C で走るときに意識すること

→ボールがバックボードに引っかからないか、マジックタイム、かっこよく走れているか・立っているか、

ハーフコートの高い位置で引っかからないか、リード・トレイル クルーが何を見ているか、など

☆失敗した後、その失敗をなくすような作業を考えて繰り返し練習をする。習慣化できれば、審判のスキルアップにつながるのでは。

(3) 審判割当確認

(4) 連絡事項

(5) その他・質疑応答

担当試合①

期 日	8月7日(木) 女子1回戦
対戦カード	忍野村立忍野中学校(山梨) vs 英明フロンティア中学校(東京)
ク ル -	CC: 岸 由貴氏(群馬) U1: 南出 大輔氏(神奈川) U2: 清水 実咲(埼玉)

ミーティング内容

審判主任: 武井 晋平氏(栃木)

▶ゲーム前の PGC

- ・チーム情報の共有 忍野中は8人しかいない。山梨県でも3位通過。英フロは#4、#5が180cm超え
- ・点差の広がるゲームになるかもしれないが、忍野中は地元開催でもあるし、全力を尽くせるようなゲームにしていきたい。
- ・クルーとも TO ともアイコンタクトをとって、一緒にゲームを進めていく。

▶ゲーム後のミーティング

- ・3人で協力してゲームを進められていた。1Q 終了間際のショットファウルでは、コールした人以外の2人でタイマーの修正ができていた。ゲーム途中もタイマー、ショットクロック等表示物関係の管理ができていた。
- ・ゲームの入り、とても緊張している様子が伝わってきた。3Q に入ってから、判定しに行く姿勢がよかった。特に4Q のオフェンスファウルについては、目の前を思い切りよく決断していた。
- ・リードローテーションが気になる。オフェンスの体の向き、目の向いている方など、判定材料にしていく。クローズダウンを上手く使う。
- ・忍野中にトラベリングを吹いたケース。点差の開くゲームだったため、勝っている英フロにも1つでも多くバイオレーションをつけたかった。特に英フロのセンターの足元に関しては、アングル的にセンターが見やすいケースがあった。シンプルにコールしたい。
- ・英フロのセンター 面取り時の手の使い方。オフェンスファウルにしてもいいケースがあった。身長差のある中でのマッチアップだったので、オフェンスにもシリンドーがあることを忘れない。
- ・チームの戦術をもっとゲーム中の早い段階で理解し、判定につなげたい。
忍野中: キープレイヤー#6 に対する英フロの守り方。ビッグマンに対する守り方。
英フロ: キープレイヤー#4、#5 のビッグマンに対する守り方。ビッグマンをどう生かしたいのか。

担当試合②	
期 日	8月8日（金） 女子2回戦
対戦カード	日本体育大学桜華中学校（東京） vs 昭和学院中学校（千葉）
ク ル ー	CC：穂川 苑子氏（群馬） U1：大木 早織氏（山梨） U2：清水 実咲（埼玉）
ミーティング内容	審判主任：平原 勇次氏（本部）
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何かが起きたときに、3人のうちの誰かが必ず近くで見ているように。 コフィンコーナー辺りで何かが起きた時には、センターは上がるかステイ。トレイルはバックパスの判定、リードはローテーション。 ・エッジの見方 リードが見る時、見ない時の体の向きをはっきりとする。 ・表示物関係の確認、個人ファウル <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの入り 昭和学院のファーストプレイ。一人目のディフェンスはOKだが、二人目のディフェンスがファウルだった（ウィークサイドヘルプディフェンダー）。二人目のディフェンスまで見られると、もっと簡単にコールできる。 ・もっと「決めに行く」姿勢を大切に。審判は「決める」のが仕事。自分が鳴らすんだ、判定するんだという気持ちでコートに立つ。 ・ローテーションとかで他のクレーンに迷惑をかけてもいい。自分が何を見たいのか、見に行くのかが大切。見たいものが明確になれば、自然と必然的にローテーションが早くなるはず。 ・ヘルドボール ジャンプボールシチュエーションにするタイミングについて。 条件は2つ①ボール状況が膠着している。②危ない時。あとはやらせる。バスケットの面白いところでもある。早く鳴らしすぎない。 ・個人ファウルの把握 昭和#6、#11が5ファウルで退場。の前に、3つ目、4つ目を分かっている判定する（コールするかどうか）。 ・クロックを見る習慣をもっとつける。特に24秒オーバータイムになった時には、セットでタイマーを見る（マジックタイム）。 ・TOに分かりやすいレポートを心がける。今大会は中学生がTO。プレーヤーが居ないところで、できるだけTOに近づいて。 ・トラベリングとジャンプボール、どちらが先に成立していたか。トラベリングしてからジャンプボールはないはず。見極めて判定。 	
全体の感想	
<p>この度は、関東中学校バスケットボール大会へ派遣していただき、ありがとうございました。初めての関東中学ということで、行く前から緊張していましたが、コートに立った時に会場の雰囲気を感じ、ますます緊張したのを今でも覚えております。2試合担当させていただきましたが、緊張しながらも今の自分のできる全力を出し切るつもりでコートに立ちました。2試合を終えて反省、悔しさばかりが残りますが、またこのような大会に成長して帰ってきたいという強い気持ちも芽生えた時間でした。また、普段なかなか一緒にする機会のない上級審判員の方々とお話したり、一緒にコートに立たせていただいたり、目の前で試合を観戦できたり、大変貴重な機会となりました。それぞれが仕事や家庭との両立で大変な思いをされながら、審判活動されていることを改めて知り、今後の自身の励みになりました。今大会で出会った「仲間」を大切に、またどこかでご一緒できるよう、今後とも研鑽を積んでまいります。</p> <p>最後になりますが、この度派遣いただきました埼玉県審判員長眞榮喜様をはじめとする指導員の皆様、開催県である山梨県バスケットボール協会の皆様、今大会を運営していただいた関係者の皆様、ご一緒させていただいた審判員の皆様、日頃よりご指導いただいております埼玉県審判員の皆様へ感謝申し上げます。誠にありがとうございました。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。</p>	